

「最強のおうち学習」この夏に改革! / 算数と英語の思考力アップ

AERA Kids

2021 夏号
定価998円

算数と英語
思考力を伸ばす
メソッド



最強のおうち学習

この夏に徹底改革!



勉強習慣
時間管理
お手伝い

Book in Book



“探究”お出かけ!
博物館・美術館 etc.



教育系YouTuber

葉一さんも
改革をアドバイス!

スマホリテラシー
お悩み相談室
自由研究と
読書感想文が
やらされ感ゼロに!



Cover Interview

阿部亮平さん
(Snow Man)

読書感想文 3つのポイント

読書・作文嫌いな子が読書感想文を完成させるポイントは次の三つ! 親がコツを踏まえてサポートしましょう。

3

低学年と高学年の子で 声かけやアドバイスを変える

低学年から高学年へ移行するなかで、少しずつ客観的な視点を持てるようになってきます。低学年の子は論理性が発達しきっていない時期なので、主観的な感想が書いていけば十分。一方で中高学年の子は、接続語を用いて、わかりやすく説得力のある論理展開を目指したいもの。低学年では、助詞の間違いや誤字脱字に気づかせるような関わりを。高学年では、「より伝えやすくするには」という視点でアドバイスをするとよいでしょう。



1

ハードルの高いあらすじは 後回しにしてもOK!

「どんなお話だった?」と聞いても、要約に慣れていない、あるいは論理的に考えられない子は、延々と物語の内容を話したり、逆に全く言葉が出てこなかったりしがちです。あらすじを書くだけで、エネルギーを使い果たしてしまうケースも多々あります。最初の部分ではありますが、ここでつまずくと一気にテンションが下がってしまうので、あらすじは後回しにしてもOK! 本体にあたる部分から書くなど、順番の工夫をしてあげましょう。

2

メモが書けない子には 親がインタビューしてまとめる

次ページから詳しく紹介していきますが、感想文に書くと思ったことは、本を読みながらメモをとらせませう。自分が感じたことをできるだけたくさん、細かくメモに書き込んでほしいのですが、うまく説明できない、メモに書けないという子もいるでしょう。その場合は、親が子どもにインタビューを。「よく覚えているのはどこかな?」などと質問し、聞き出した内容をメモに書かせませう。場合によっては、親がメモをとるのもアリです。

る過程では、考えを深められるだけでなく、別の考えや気づきを得ることもあるでしょう。自分の中で問答を重ねることは、将来社会で活躍できる自立した大人を育てることにつながると思っています」

コツをつかんで、2日間で終わらせよう!

意味のある宿題とはいえず、ハードルの高い読書感想文をスムーズに書く方法はあるのでしょうか。

「まず、子どもひとりでは無理だということを理解して、親も一緒に取り組んでほしいですね。とりわけ、低学年の子どもにとってはハードルがかなり高いものだと思いますので手助けは必要です」

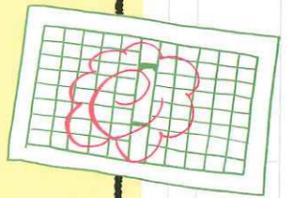
関わりのポイントは上の三つ。書く順番にとらわれず進めることや、苦手や発達段階に応じて、対応を変えることがコツになります。「読書感想文は1日2時間、2日間で仕上げることをオススメしています。1日目は、本を読んでメモを書くといった材料をそろえ、2日目は、下書きと清書をします。1日で仕上げたい気持ちもわかりますが、急ぎ足になり、子どもの集中力も切れてしまいがちです」

では、実際に取り組むときはどのように進めればよいのか、次のページから具体的な手順を紹介していきます。

子どもの気持ちを引き出すインタビューで

グングンはかどる!

読書感想文



夏休みの宿題の定番・読書感想文。

そもそも何をどうやって書いたらいいのかわからず、

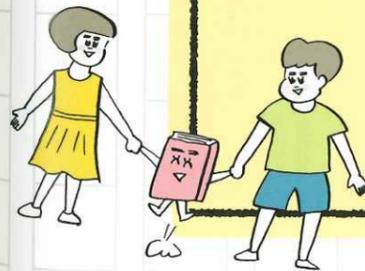
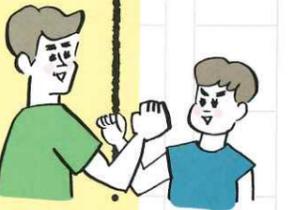
頭を抱える親子が続出!

親子で取り組むときのポイントや書き方のポイントなどを

花まる学習会で作文指導をする竹谷先生に

うかがいました。オススメの本も紹介しています。

取材・文：高橋亜矢子 イラスト：あべさん



花まる学習会
竹谷 和先生

年中から中3まで幅広い学年の指導経験を持ち、語彙や言葉のセンスを磨く「特選」コースも担当。花まる学習会の教材開発をはじめ各種出版に携わる傍ら、講演会も行う。

読書感想文は 自分と向き合う時間

読書感想文が書けず、「夏休みの終わりに泣きながら書く」という家庭も多いのでは?

親子ともに嫌われがちな読書感想文ですが、そもそもなぜ宿題として出されるのでしょうか。

「時間のある夏休みは、本を通じて自分の感じたことに向き合う絶好の機会。普段の読書では、感想がただ頭の中に浮かんで終わりになってしまふところを、文に起こすことによって、自分の経験を振り返り、新しい意味づけをすることができます」

そう話すのは、毎週作文を書く花まる学習会で、のべ1000人の子どもに関わってきた竹谷和先生。読書感想文は学年が上がるとつれ、読み手に伝わる言葉を選んだり、構成を考えたりという視点も加わり、さらに宿題として出される意味が強まります。

「文章を書くことは、考えをまとめること。感じたことを文章にす

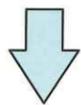
あらすじは後にして自分が
ひきつけられた点からメモにまとめていく

親が書いてもOK!



原稿用紙を各パートの文字量に合わせて切ったものを子どもに渡して、「この枠の中に書き切ろうね」と伝えると、終わりがイメージでき、進めやすくなります。

ふせんをつけた場面から
2、3にしぼりこむ



どんなところが印象に残ったのか
メモに書き出す

本を読んだらいきなり下書きにとりかからず、ふせんをつけたそれぞれの場面で自分が感じたことをメモに書き出していきましょう。このメモを丁寧に書くことで、感想文の材料はほぼそろいます。最初は「驚いた」のひと言でも構いませんので、親子で対話しながら、内容を深めてください。そのとき、おうちの人が「私はこう思ったな」と感想を伝えてあげると、それがフックになって、子どもの気持ちを引き出せることがあります。

ワンランクアップ

+高学年の子には…

「作者がどんな思いでお話を書いたのか」
考察したパートを追加すると
深みが出る!

すべてを言葉で説明できるわけではありませんが、作者の創作の動機に思いを馳せてみることは、価値があります。文章に深みが出て、ひきつけられるものになるでしょう。言葉には表れていない部分をイメージすることで想像力が養われるだけでなく、普段なら読まない情報まで読み取るようになるので読解力も深まります。



（メモが書けない子には…）
親が子にインタビューして
メモをとる／録音する

< 質問例 >

5W 1Hを聞く

- ・ 誰が何を話したお話だった？
- ・ いつのできごとだった？
- ・ どのところが心に残った？
- ・ どうやって解決したのかな？ など

段取りをつけたり、時間を意識したり、自分の中で理由の意味づけをして動くのが低学年の子はまだ十分にできません。なので、「なぜそう思ったの？」といったWhyの質問に答えるのは難しいもの。5W 1Hの質問をして、あらすじの要点を確認させて、ひきつけられた点を引き出すのにもいいでしょう。

2日間 4ステップ で完成!

読書感想文の書き方

読書感想文のコツをつかんだら、さっそく取り組んでみましょう。本選びから清書まで具体的な手順を紹介します。

読書感想文 基本の構成 (800字の場合)

- 1 本のあらすじ (100~150字程度)
- 2 ひきつけられた点 (250~300字×2本程度)
- 3 自分が主人公ならどうするか/まとめ (100字程度)

主人公を主語として4~5文でまとめられればよいでしょう。低学年なら、物語のなかでの出来事ベースで十分。中高学年は、主人公自身の内面の変化を盛り込んだ要約に挑戦しましょう。

感想文の核となる部分です。最も心を動かされた場面を2~3選び、各パート300字くらいでまとめましょう。低学年は「感じたこと」ベースで書ければOKですが、中高学年は理由もしっかりと!

「もし自分だったら……」と想像するには、自分自身の経験を掘り起こしてやる必要があります。まだ経験が少ない低学年は無理して入れる必要はなく、3~4年生から挑戦したいパートです。

1日目

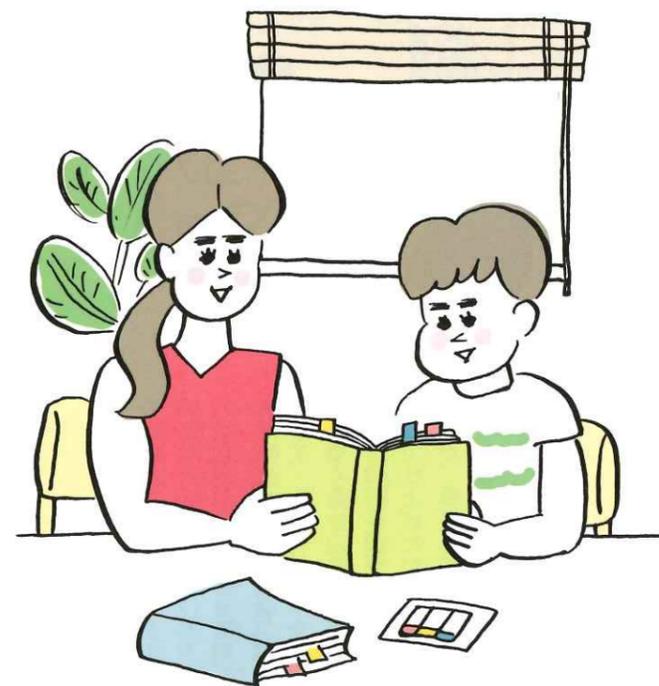
いきなり作文用紙に書くのではなく、まずは準備から。親子で本の感想を言ったりメモをまとめたりします。

子どもが好きな本を選んで 印象に残った場面にふせんをつける

本の内容をもとに書く読書感想文では、「好き」「薦めたい」という動機がないと、最後まで気分よく書くのは難しいもの。下の四つ以外に、子どもが好きで選んだのであれば絵本や図鑑でもOK。テーマ分けされている選書用のムックから選ぶのも効率的です。普段ゲームばかりという子も、たとえばRPG好きなら冒険物、クリエイティブ系ならものづくりがテーマの本など、好きな要素を掘り下げることがポイント。本を選んだら、印象に残った場面いくつかでいいのでふせんをつけながら読みます。1回目は楽しく、2回目は感想文のためと、できれば2回読むのが理想。

（本を選ぶときのポイント）

- ・ 本当に好きだと思える本にする
- ・ 人におすすめしたい本を選ぶ
- ・ 感情移入できるものにする
- ・ ストーリー性のあるものにする



清書をして、完成させる

下書きが終わったら、原稿用紙に清書をしていきます。以下は小4を想定して800字でまとめた感想文の例です。基本の構成や書き方のポイントを確認していきましょう。

< 作文見本 / 小4 800字の場合 >

お母さんを思い通りに動かす！

朝日 美波

「勉強勉強といわせない」「好きなごはんを作ってほしい」。「かあちゃん取扱説明書」は、いつもかあちゃんにガミガミ言われるてつやが、かあちゃんを自分の思い通りに動かそうと「トリセツ」を作るお話です。「トリセツ」にはいろんな場面でかあちゃんにおこられないための言葉や行動が書いてあり、本当に合っているかためていきます。さいごにてつやは、いつも注意してくるかあちゃんの気持ちをそうぞうします。

わたしが読んでおもしろかった場面は二つあります。一つめは、さいごに出てくる、てつやがかあちゃんのことを書いた作文です。たとえば、かあちゃんがケチでおみやげのロールケーキをもったいないからと少しづつしか食べさせてくれないで、しょう味期げんをきらしてしまいます。「うちのお母さんにそっくり！」と思いました。そういうのはうちだけじゃないんだと考えたら、楽しい気分になりました。

二つめは、友だちのカズのお母さんが学校まで忘れ物の習字道具をとどけたら、カズがゴミばこにすてたところ。いつもやさしくてうらやましいと思っていたカズのお母さんを、カズはいやがっていることにびっくりしました。たしかにわたしのお母さんはおこることがあるのに、わたしの友だちは「やさしくていいな」と言います。よそのおうちのお母さんのことはわからないんだなと思いました。

わたしがてつやだったら、「トリセツ」を作るのはむりだと思えます。なぜなら、わたしがこっそり「トリセツ」を書いていたら、お母さんにすぐ気づかれてしまいそうだからです。でも、てつやみたいににお母さんをかんさつしてみたらおもしろいと思います。どうやって言えばお母さんがにこにこしていただけるのかを考えてみたいです。

自分が主人公ならどうするか / まとめ

主人公を自分に置き換えて、物語と似たような体験談を書きます。最後に体験を通じた自分の考えをまとめると文章がまとまります。うまく書こうとせず、その子ならではの言葉が魅力になります。

ひきつけられた点

読んでいて印象に残った場面と、その理由を書きます。「主人公の作文に共感したこと」「友達のお母さんが忘れ物を届けにきた場面」の二つを選び、自分の感じたことをまとめています。

あらすじ

まず、「～が主人公で、～したお話」という骨組みの部分をつくり、細かい部分を足していきます。今回は、「勉強勉強といわせない」など、主人公がかあちゃんを思い通りにしたい内容を加えています。

今回取り上げた本



『かあちゃん取扱説明書』
いとうみく / 作 佐藤真紀子 / 絵 童心社
いつもガミガミうるさいかあちゃんを、思い通りに動かしたい！ 哲哉はひそかにかあちゃん「トリセツ」を書き始めたが……。ユーモアたっぷり、感想文にオススメの一冊。

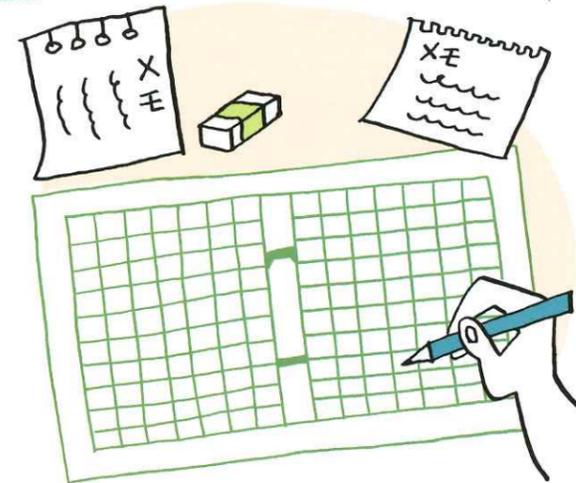


いよいよ下書きです。見直しをして作文を完成させます！ 頑張りをねぎらってあげましょう。

実践 その3

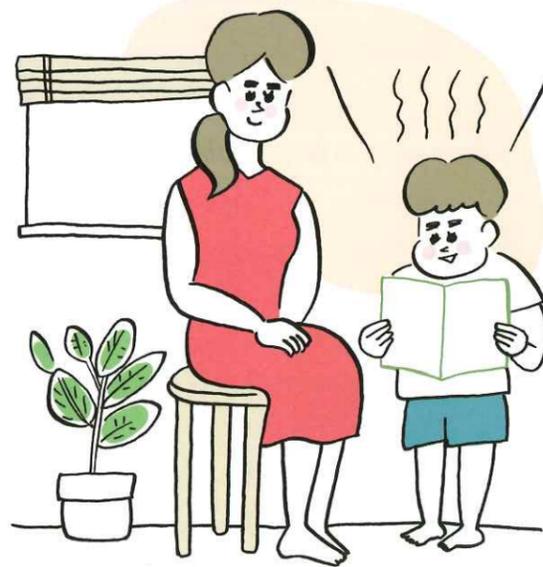
メモを見ながら下書きをした後、作文の見直しをする

書くための材料がそろったら、下書きに取り組みましょう。主語、述語や助詞の間違い、誤字脱字など、いろいろと気になる部分はあるかもしれませんが、いちいち止めて書き直させているとせっかくの勢いが削がれて、やる気をなくしてしまいます。清書するという前提で、いったん原稿用紙の最後まで書き切らせてから、ケアレスミスの指摘やアドバイスを伝えたとスムーズに進みます。客観的に自分の文章を判断して練り直す作業は、手持ちの語彙や知識が少ない低学年の子にとっては難しいものなので、親はどんどん手助けしてあげてよいところです。



親は内容に口出しをしない！ うまく書く必要はナシ

子どもが書いた内容に意見をしてしまうことや否定して書き直させるのはNG！ 親の感じ方とは違いますし、感想は人それぞれ。あくまでその内容を「より伝えやすくする」という視点で、右を参考に学年に合ったアドバイスをしましょう。「書いてよかった！」と達成感を味わえることが大切で、うまく書く必要はないと肝に銘じておきましょう。



推敲が苦手...

低学年の子の見直しポイント

音読をさせて、誤字脱字などに気づかせる

音読をすると、低学年の子でも、自分の誤字脱字などの間違いに気づきやすくなります。間違った字や文章がつながっていないところがあると、読めなくてつかえます。親が見つけて指摘するより、何倍も効果的です。

客観的に見られる

高学年の子の見直しポイント

書き方の具体的なアドバイスを伝える

いきなり指摘から入ると、モチベーションが下がってしまいます。まずは、「頑張って最後まで書けたね」と書いたことを認めてあげて、そのうえでアドバイスをすると、高学年の子でも素直に聞き入れてくれます。

相手に伝わる文章になっているか

自分で書き方を発見させるだけでなく、「今こっつこう書いてあるけれど、こう書くとより伝わるよ」と見え方の違いを明示してあげるのも効果的です。工夫次第で変わることがわかれば、次につながる力になるはず。